

豊かな学びを創造するゆとりある教育課程の編成と実践

I 研究内容

1 研究の方向性

新学習指導要領全面実施を控え、子どもたちの学力向上に対する期待が高まっている。私たちは、「何を学ぶか」ではなく、「どのように学ぶか」を改めて問い直し、自主創造的な教育実践を積み重ねることによって、これらの声に対する結果を出していかなければならない。子どもたちに「ゆたかな学び」を保障していくために、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは、私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ、教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法を創り変えていく必要がある。すべての子どもたちに、学び合いの中で「学びの意欲」を喚起させる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために、日々、目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究し続けていかなければならない。

本部会ではこれまでに、主にカリキュラム編成の工夫について総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。部会員全員がそれぞれの実践を持ち寄って意見交換を行い、総合的な学習の時間における指導の工夫や可能性について討議を重ねてきた。新学習指導要領においては、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」によって学力向上を図ることが示されているが、時間数が削減された総合的な学習の時間においては、各教科で学んだ知識や能力を生かすことによってその成果を高めることが期待されている。そこで本部会においては、総合的な学習の時間だけにこだわらず、他の教科での実践も視野に入れ、自主編成によるカリキュラムの工夫について研究を進め、検証結果を日常実践に還元していくことを目指している。

授業実践においては、多角的な視点をもって教材や単元を分析しながら「どのように教えたらよいか。」「どういう授業を展開したら効果的か。」を模索していくことを基本とし、定められた指導計画によるものではなく、「教科書“で”教える。」という意識を大切にしながら、自主創造的な学習プランを策定して実践を進めていく。

そのために、次の3つの視点を重視して、成果の検証にあたる。

- (1) 授業（単元）における、「子どもにつけさせたい力」は何かを明らかにする。
- (2) 授業（単元）において、授業者が「自主編成した部分はどこか。」「工夫したところや作り直した点はどこか。」を明らかにする。
- (3) 授業（単元）のふり返りや分析を丁寧に行い、成果と課題を明らかにする。

授業の分析においては、授業の様子を撮影した画像・映像の効果的な活用と、子どものノート・作品・感想記述などを、時間をかけて多角的に分析していくことによって、子どもの変容をみとり、成果と課題を明らかにしたい。本部会としては、すべての子どもたちの「学びたい」という意欲を引き出す工夫と、すべての子どもに「豊かな学び」を保障していくことによって、結果として子どもたちの学力の向上にもつながるように、内容や方法を捉え直す努力を積み重ねていきたい。

2 研究授業と各教科などにおける個人実践発表

○教科等横断的な視点を重視した授業づくりについて	加納岩小： 大村 えり 教諭
○道徳「差別のない社会へ」	加納岩小： 深澤 一葉 教諭
○SDGsを考える取り組みの実践	山梨北中： 内田 晴奈 教諭
○道徳「誇り高い生き方」	山梨北中： 大芝 笑美 教諭
○総合的な学習の時間「お米の良さを知ろう」	東雲小： 山縣 重人 教諭
○数学「連立方程式」・道徳「たすきとポンポン」	塩山北中： 広瀬 奈見 教諭
○甲州市わだつみ平和文庫を活用した平和学習・キャリア教育 社会科「地理的分野 世界の諸地域 ヨーロッパ州」	大和中： 前島 香織 教諭
○外国語科「What do you have on Monday?」	塩山北小： 小宮山公仁 教諭
※ 指導助言	神金小： 古屋 宏記 校長

II 成果と課題

1 成果

- 校種や教科の異なる先生方の実践を聴くことで、それぞれの学級の実態や先生方の工夫を交流でき、視野を広げることや学びを深めることができた。
- カリキュラムの工夫次第で子どもの学びが変わるということを改めて知ることができた。
- 「子どもにつけさせたい力」「授業の工夫」「振り返り・分析」を意識して授業を行うよい機会となり、自分自身の授業改善につながった。
- 「子どもにつけさせたい力」を明確にして取り組んだ実践から、指導者の先生方の思いや工夫がよくわかり、参考になった。
- 「何を学ぶのか」ではなく、「どのように学ぶのか」を意識して行った授業実践に対して、様々な意見をいただき、よい学びの機会となった。
- 子どもたちの変容がわかる資料説明やプリントがあり、研究会の方向性と合っていてよかった。
- 授業実践だけでなく、「GIGA スクール」についての情報交換もでき、有意義な時間であった。

2 課題

- ・子どもにつけさせたい力や工夫したことなどを討議の中でもう少し話し合えるとよかった。
- ・授業評価について話題に挙げ、いろいろな考えや実践について交流できればよかった。
- ・カリキュラムづくりという視点で、もっと学びたかった。
- ・With コロナの教育環境が続くので、児童生徒同士の意見交流の場面や深い学びにつなげていく過程など工夫が必要だと感じた。
- ・少人数だからこそ活発な意見交換が行えたが、人数が増えればさらに違う視点の意見が出るなど、よりよい時間になると思う。

(部長 小宮山 公仁)